

関西花き卸売市場での切花取引への影響

株式会社 JF 兵庫県生花
吉 田 智

全世界で猛威を振るう新型コロナウイルスによる感染症は2月頃より日本国内でも拡大が始まり国民の生活に大きく影響を及ぼしている。私共花き卸売市場においても切花や鉢物の取引に甚大な影響が出ている。本稿では関西の花き卸売市場における切花の取引状況について記述させていただく。

3月 新型コロナウイルス感染拡大本格化

【消費と販売】

通常であれば3月は春の彼岸、歓送迎会、卒業式や各種イベントなど切花の特需期。今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い本格的に花きの消費にも大きな影響が出始めた月となった。政府からは3つの密を避ける新たな生活様式が提案され人が集まるイベントはことごとく自粛に追い込まれた。当然それらのイベントで使用される装花の需要は壊滅的なダメージを受けることとなった。また生花需要の期待できるホテルや飲食店などにも多大な影響が出始めたため、特に洋花類の落ち込みは顕著となった。

外出自粛に伴い遠方への買い物が減った代わりに、自宅近隣のスーパーなどで日用品や食料を買い求める消費者が増えた。この影響によりスーパー店頭でのカジュアルフラワーいわゆるパック花の消費が堅調に推移し始めた。この状況はコロナ禍において継続して見られる傾向である。葬儀需要については上旬はほぼ15%程度のダウンで推移したが、後半は都市部の業者を中心に大きく業績を落とす結果となった。

【花き卸売市場】

例年花き卸売市場ではこの時期に大規模な展示商談会などのイベントを企画しているところが多いが、今年は中止とする市場が相次いだ。弊社でも春の感謝祭と称した商談会を企画しており、感染の拡大が見られ始めた時期と重なり中止も検討したが、様々なご意見を参考に感染予防対策を最大限配慮した上で予定通り開催した。出展者の一部にキャンセルが発生したが、

商談会は大変好評をいただき取引も思いのほか好調であった。

【市場取引】

3月全体では取扱量を減らす結果となった。しかしながら春彼岸だけを見ると墓参り需要を中心にほぼ例年と大差ない取引結果となった。3週目以降規模を縮小して卒業式を行う学校が増加し、特にガーベラの需要が急激に高くなり13日以降から20日にかけて非常に引き合いが強い状態となり、20日の時点では前週比170%の単価を記録した。

4月 緊急事態宣言の発令

コロナ禍でもっとも大きな影響を受けた月

【消費と販売】

大規模商業施設のテナントは軒並み営業自粛を余儀なくされた。縮小する切花取引の中で春のお彼岸以降も仏花の需要は比較的安定しており、ホームコースのカジュアルフラワーの引き合いが引き続き強い傾向が見られた。葬儀は前年と同程度の件数で推移したが、家族葬や直葬が中心となり生花の使用量は半減した。

4月下旬ころになると一部のマスコミが生花店、産地、卸売市場などを取材し、花が売れないことや花が非常に安いといった内容がTV等で報道されるようになり、一般の消費者に広く伝わることとなった。このためこれ以降母の日前後まで販売店で余計に生花が売りづらくなった、あるいは価格交渉をされるようになったなどと、多くのご不満の声を伺った。

【花き卸売市場】

緊急事態宣言発令下においても卸売市場は社会を維持する上で必要な生活インフラとして営業自粛の対象から外された。ただし従業員を含め買参人、関係業者等非常に多くの方々が来場されるため、通常の商品取引業務を遂行するにあたり、弊社では新たにガイドラインを作成した。ガイドラインは3項「①感染拡大